

# 高退協ニュース

## 2・11「建国記念の日」に 反対する県民集会に240名参加

2月11日午前10時から12時迄、高知電気ビル8階ホールで240名が結集して、標記の集会が開かれ、高退協からも十数名が参加しました。

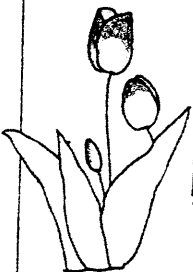
開会挨拶の後、谷脇弁護士と梅原一前須崎市長が意見発表して、集会アピールを採決し成功裏に閉会となりました。

谷脇和仁弁護士は概要以下の話をされました。「憲法改正と教育基本法改正がセットになって進められている、憲法9条を改正し、『戦争する国』へとの大転換をねらっており、それを支える人材養成作りに教基法が改正されようとしている。従って、憲法改正と教基法改正を阻止するため、両法改正反対の運動を結合させることが大切である。そして、両法を守り、実施させ、世界に広げる運動の展開が鍵となる。」

梅原前市長は、「改正とは間違いを改めることで、間違っていないものを改めることは改悪である。党派の別は関係なく、心ある者が一致協力して、改悪阻止に立ち上がるべきだ」と主張しました。

「憲法や教基法は、その精神で政治や教育を実践することが大切で、その実践がなされていない処に問題があると、自らの経験を語りました。毎朝毎日の悪いニュースこそ問題であり、大人が姿勢を正すことから始めよう」と訴えられました。

現在県教組、高教組、退職教職員三団体が手を結んで、憲法・教基法改悪阻止の運動を組織しようとしています。会員の皆さんが居住地でこの呼びかけに積極的に応じてくださるようお願いいたします。



## 知っていますか 年金並生計者へ 大増税!

政府は「高齢者も応分に負担すべき」と高齢者向けの税制上の控除の廃止、縮小を決定しました。その内容は次の通りです

- 配偶者特別控除の廃止 三八万円
- 五年度実施
- 老年者控除の廃止 五〇万円
- 公的年金等控除の縮小

二〇万円以上(一四〇万円から一二〇万円控除へ)  
配偶者特別控除、所得が少ない配偶者がいる場合に一律に適用されていましたが、廃止になりました。

老年者控除、六五歳以上の人について五〇万円を控除していましたが、廃止になりました。  
公的年金等控除、収入によって差があります。

収入が二六〇万円以下の方は、一四〇万円控除していましたが、二〇万円控除に縮小されます。これによって、配偶者がいる人(六五歳以上)は一〇八万円分、配偶者がいない人でも七〇万円分だけ課税所得が増えます。

つまり、普通の人ではこれだけで所得税(10%)が一〇万七千七百円の増税です。県民税、市町村民税も県連して増えます。更に、国保(国民健康保険料)と介護保険も連動して増えます。なかには、今まで第一段階の対象だった人が一気に最高限度額になる人も出てくるでしょう。

ちなみに、あなたの年金額は「マクロ経済スライド」によって今年度から確実に減っているはずですよ。

年金は減ったのになぜ税金(国保、介護保険も含めて)だけ二倍にもなるのか、二〇〇五年三月の確定申告から身につまされる事になります。怒りましょう!

高知退協  
事務局  
2005.3.15  
No.133

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸ノ内2丁目11-10  
TEL 088-1822-1682  
TEL 088-1822-11893

郵便振替口座  
780-0850

## 「九条の会」結成

県下の市町村に広がる3月30日「21世紀に輝け 憲法九条高知の夕べ」を成功させるため県下各市町村で「九条の会」の結成が広がっています。各地域で積極的に参加し取り組みましょう。

署名運動にも取り組みましょう。署名欄が埋った署名用紙はほとんど事務局に廻してください。有権者の半数以上の署名をとることができれば!日本は変わります。

高退協の署名集約状況は他団体より大変低く遅れています。頑張らしましょう。  
註: 諸願望者夕べを集め切ろう!

【日本国憲法は、悲惨な戦争と専制政治への反省から、人びとの平和と民主主義のねがいをもとて生み出されてきました。なかでも「戦争の放棄」を定めた九条は、二十一世紀の世界のあり方を示すものとして、平和を愛する国内外の人びとの熱い支持を集めています。

しかし、今、憲法九条を変え、自衛隊を政府の意のままに海外に送り出せるようにし、自由や人権を制限し、日本を再び「戦争をする国」にしようとするうごきが強まっています。私たちは、このような憲法改悪の動きを受け入れることはできません。

高退協では今年三月末までに二〇〇〇筆を目標に署名活動をすすめています。会員の皆さんには署名用紙が届いておることと思います。また、それぞれの地域等で取り組んでいるでしょう。ぜひ、それらを集約し左記まで送付または電話を下さい。とも頑張りましょう!(担当 小澤)

高知県高等学校退職教職員協議会事務局 780-0850 高知市丸の内二丁目一〇一 高知城ホール内 高等学校教職員組合 気付 ☎(〇八八)八二二一六八二二

## 老声草

生まれつき面倒なことが嫌いな質で、我が家の集金は、出来るものはすべて銀行引き去りにしている。その中でひとつだけ永年気にかかっていたのがNHKの受信料である。たまに家に居る時に見る大河ドラマとニュースが、なんと年額二万二千五百二十円也。一括ガツポリと引き落とされる。年金生活者になって、光熱費、上下水道代、新聞代等々、生活の必要度から比べれば、いかにも割高で無駄な出費である。

しかし、面倒なのでこれまでずっとそのままにしておいた。ところが今回の一連の不祥事で、「世界が笑うNHKの『常識』(『ニューズウィーク』)とヤユされても、NHK幹部には事の重大さがまだ分かっていない。一方的な言い訳ばかり報道して、反省どころか開き直っている。とうとう頭にきて先日(1/24)、労金にわざわざ出向いて口座振替を止めてきた。

まだNHKからは何も言っていないが、どのような形で請求してくるのか、今から楽しみにしている。  
そしてもう一つ許すことができないのが、自らの職をかけて政治介入を告発した長井チーフプロデューサーに対して、安部自民党幹事長代理、中川経産相が事実をウヤムヤにして逃げにかかっている。二人とも苦勞知らずの二世政治家。あのイラク人質事件の時には「自己責任」を強く主張した本人達である。それならば自らも真相を明らかにして責任をとるべきだがそれをしない。我々が追いつめる以外にないのか。

ところでNHKは公共放送だと言うが、一日の放送の始めと終わりの「日の丸」、「君が代」、これまで指摘された放送姿勢など、国営放送そのものである。そんなメディアに今、受信料は一銭も払いたくない。現行放送法では罰則規定はない。さあどうする・・・。(中村)

秦泉寺残日録

坪井 幹之

新春闘病記

年明け早々、歩行が困難になつた泣き言を述べる。事の始まりは年末の十二月十七日の朝で、起き上がろうとしたが脚が立たない。やっと這いながら階下に下りる。なんと朝食をとって、散歩に出掛けた。一歩一歩、歯を食いしばって歩いていくうちに、痛みが和らぎ始めた。所定のコースを短縮、やつの思いで帰宅した。なんとか予定していた洗濯を済ませて、その日は読書で一日を過ごした。二十日になって、生協病院外科で診断を受けた。検査の結果は「閉塞性動脈硬化症」とのこと、薬を貰った。ああ、これで山歩きも飲酒もおしまいか、と大いに気落ちした。余生に立てた目標の中で、何とか成し遂げられたのは、「四国八十八カ所の歩き遍路」だけとは情けない。「日本百名山完登」はずでに体力不足で諦めかけていたが、「ヒマラヤ八千米峰十四座の観望」は遊覧飛行と短いトレッキングで実現可能とふんでいたが、残念無念、もはや空中楼阁の夢か、と半ば覚悟した。

年明け早々の二日、恒例の七ツ洲神社の初詣の日を迎えたが、山越えのコースのためいささか不安であったが、行ける所まで行ってみようと思ひ、出掛けた。発作時に比べると我慢できないほどの痛みは消えていた。それに不思議なことに平坦部より坂道の方が楽であった。結局、往復四時間の山道を歩き通した。神の御加護か、予想したほどの痛みも疲れも残らなかつた。念のため四日、城北診療所に向いた。再度、経過を詳しく説明、向後の治療について指示を乞うた。所長のサゼスチオンは一度整形外科の専門医に診てもらつたらというのであったので、診療所近所の村山外科に立ち寄った。

若い担当医は懇切丁寧に診察してくれた。レントゲン検査を含めた診断の結果は、背柱の変形からくる神経の圧迫によるもので、病名は「腰部脊柱管狭窄症」(通称、坐骨神経痛)で、脚自体の損傷ではないとのこと、特段の治療

も必要でない、まあ週に二回ほど温熱療法を試してみたらというのであった。まことに有難いお言葉と拝聴したわけである。高齢者の多くが悩んでいる病気であるが、いまだ根本的な治療法はみつからない。進歩の過程で直立歩行を始めたホモ・サピエンス独自の疾病だそうだ。その後の診断の結果、傷みがあると、その刺激が患部への血の流れを悪くし更に痛くなるという事態を招くこともあるので、悪循環を断ち切るために薬の服用をすることに。これが十二月・一月の経過である。長話で恐縮であるが、更に次号で補足を。



私の健康法

森下芳文

私の教科が保健体育でしたので、授業で「早期発見、早期治療」を教えてきましたが、今回が身で実践する羽目になりました。元々、前立腺肥大の症状があり服薬をし、定期的診療を受けていました。

高知医療センターの開院に伴い、市民病院から転院を勧められ、藤田クリニックを紹介されて定期検査の結果を持って紹介状を書いてもらうことになっていました。血液検査の結果、マーカー値に2.7がでました。組織検査の対象は4.0以上だそうです。過去2回のデータ1.7からすると上昇度が急なので「念のために組織検査をしては」との主治医の勧めもあって検査を即断しました。

迷うことなく決断し組織検査を実施した結果、8ヶ所のうち1ヶ所からガンが見つかりました。四段階の進行度のうち1でごく初期で転移はないと思われるが、なお慎重を期すため転移の検査も受け、転移はないことを確認して手術に臨みました。

高校時代の同輩が同じ前立腺ガンの手術を受けた話を耳にしましたので、早速経験聞かせてもらい、自己血保存の知恵をもらいました。

活動日誌

【1月】

- 5日 新年初歩き・懇親会
- 6日 県労連旗開き
- 17日 定例事務局会
- 25日 山原資料室建設委員会総会
- 28日 高知AALA 40周年祝賀会

【2月】

- 8日 山原資料室建設事務局会
- 11日 2・11集会 山崎きよさ
- 15日 結婚披露会
- 15日 定例事務局会
- 19日 国民救援会高知支部定例総会
- 21日 山原資料室建設事務局会

【3月】

- 1日 卒業式ビデオ配布
- 4・10日 山原健二郎ロビー展
- 15日 定例事務局会



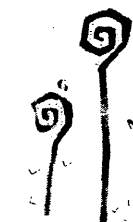
また、高校時代の仲間のホームページに「前立腺ガンの診断を受ける、情報を得たし」メールを送って、同級生から、弟が泌尿器科の専門医だを紹介してもよいとの連絡を受け、セカンドオピニオンとしていろいろアドバイスを受けました。自己血保存も最大1200ccしておくことよいことも、彼のアドバイスで確信を持って主治医に申し出ました。

結果は1200ccでも足りずプラス800cc合計2000ccの輸血を必要とすることになりました。心配だった輸血に伴うトラブルの危惧は残ることになってしまいました。手術としては成功し後の治療は必要なく、定期的な血液検査のみでよいとのこと、一安心というところですが。

合併症として心配された尿失禁はほとんど無く、予後は知らされていなかった。尿の回数多さと排尿後の痛みに悩まされながら、「日にちが薬」との主治医の話を信じて尿回数の減少と痛みの和らぐことを念じながら療養に努めています。

症状改善が月単位との話に一ヶ月の経過を指折り数えて日々過ごし、一ヶ月を過ぎる2月下旬を迎えてようやく痛みが和らぎ、尿回数も減少傾向に入っています。

老眼鏡



「満天の星」

百五十余名にささげる弔辞集

山原健二郎

8月の山原健二郎をしのぶ会に800余名が県民体育館に集い、「満天の星」を手にした。

高教組出身の故人15名に目を通した。よくもこれほどまでに当人を理解していると感服した。

3月4日から10日まで、高知城ホールで「山原健二郎展」を開催。今一度、「満天の星」をさるとび日記第6集、短歌雑誌「海光」の特集「山原健二郎先生追悼号」を読んだ。

南の熱き炎にくらぶれば赤き絨毯包纏せて見ゆ  
仏桑華そこには咲くなそこは基地  
汝が紅は沖繩のもの  
この二首はあまりにも有名。元秘書、光富充さんは、「海光」に次の一節を載せている。

山原さんが小選挙区制で勝利し、十連連続当選を成し遂げたとき、高知新聞は「流れ星は流れても北極星は動かなかつた」と称えました。

三十一年と六ヶ月の国会活動で山原さんは、佐藤首相から森首相まで16名の総理大臣と対決しました。文教委員として、坂田道太に始まり中曾根弘文まで歴代33名の文部大臣と論戦してきました。本会議を入れて五百十一回に及ぶ質問で、県民の声、国民の声を国政に届けつけました。

病床の母に毎日、画入りのハガキを送りつけ三千通をこえたといわれます。

山原さんは日曜日や金曜市の賑わいを愛しつけました。日曜市での国会報告は一千回をこえ、「日曜市の名物」になり、全国から「ツアー」が来るようになりました。

みなさんが「さるとび日記」「満天の星」を再読してください。山原健二郎資料室・国会事務所建設運動の励みにしていただきたいと思っています。

和田 明

高教組だより

高教組委員長 橋元陽一  
卒業式も終わり、梅の花が咲き、木の芽が膨らみはじめ、日ごと春の息吹が広がります。

こうした温もりのある動きとは裏腹に、憲法・教育基本法改悪の動きと共に教育現場は厳しい情勢に包まれています。まず賃金を巡る問題です。〇五年度の県の予算は四五〇億円余で、一六〇億円を越す財源不足を基金等から補填して成立しています。さらに国の三位一体改革や公務員制度改革、国公立大学の独立法人化の流れが、「地域給」導入などで、教職員の賃金に格差が作り出されようとしています。また寒冷地手当の大幅削減に続いて、へき地手当、産業教育手当、定通教育手当を半分に削減しようとしています。

賃金削減による統制の動きと軌を一にして「新しい人事評価制度」の試行が拡大されています。今年度は小中学校が市町村で各一校ずつ、高校十一校、障害児学校二校で合わせて一〇〇校を超える学校で試行され、〇五年度は全校で試行導入されます。

「親勤評」の概容は、学校の教育方針に沿って各人が「自己目標シート」を作成して、年間三回程管理職と面談して、最終的に自己評価と管理職による評価を行うものです。評価は、態度・能力・成果について、SABCの四段階に分かれます。Cは「できない」との評価を下し、「指導力不足教員」にリ

海外一人旅

バックツアーでなく、一人でぶらぶら海外を歩きたいの思いに駆られてニュージーランドに行った。そしてクライストチャーチで四週間一般家庭に滞在し、あちこち訪ね歩いた。ホームステイは「英語の勉強」が条件なので、週日の午前中は一応スクールに通った。

英語? 勿論話せない。空港に迎えが来ていなくて、初っ端からハラハラドキドキの場面もあったが、そのほうがスリリングで面白い。不安はあるが切り抜けたとき満足感がある。街ではどこへ行っても日本人に突き当たる。語学研修の若者や中高年のツアー客だ。自分もその一人なので文句は言えない。

ンクさせる狙いもっています。また評価者は一次評価者(教頭、事務長、二次評価者(校長、教育長)と複数になり、評価の結果は本人に提示されることとなります。すでに試行の段階から、管理職の評価能力を懸念する声も上がったり、目標設定や大規模校での面接時間の確保などの困難性も指摘されています。

さらに「評価制度」などに関して、世界的な見地からも日本の教育行政の不当性が指摘され、監視下に置かれることになりました。〇二年六月に全教が行った「申し立て」を受けて、ILO・ユネスコ共同家専門委員会は〇三年十二月に、「日本の教育行政は『教員の地位に関する勧告』の水準に達していないこと」全教は協議の対象である教員団体であり、誠実に対応すること「現行の評価制度は主観的、示威的に行われることが明らかであること」などの趣旨の勧告(CEARPT勧告)を日本政府に行っています。

近隣県にも呼びかけて、二月二六日には、教育研究センターと県・高教組との共催で、県教委、保護者、高校生、現場教職員によるシンポジウムを開催し、教育現場に求められている「評価」のあり方を追求しました。教育基本法を守る三・二六全国集会を節目にした教育への「不当な支配」許さない全国的なたたかいと共に、職場での学習・議論と教育行政との交渉を進めていきます。

N・Z最高峰マウンテンクック裾野をトレッキングしたときのことである。変わった体験をしたのと安いのが魅力でユースホステルに泊まった。ツインの部屋が68ドル、二人で泊まればその半額になる。一方ホテルの方は200、360ドルで、いずれも食事は付いていない。(NZドルは80円前後)

途中、コバルト色の美しい湖や雄大な山岳風景が拡がり、それだけでも楽しい。バスの運転手はいろいろ説明しているが全くわからないう。昼過ぎに着き、U字谷を氷河湖までひと歩き。四時間ほどの行程だ。宿に着くと「チエックインをした。予約はこれだ」とチケットを示すのが精一

短歌

友情 神原忠彦  
術後三日安否なる親友はひよいと来てそり寝るわれに枕をすけぬ  
(井上英生君のこと)

隣室には手術早かりし級友も居て動けぬわれを日々に尋ね来  
(門田宜雄君のこと)

教子からの年賀状 叶岡淑子  
「子育ても仕事も多忙、元気ですわが遠き日を重ねつつ読む  
冬ソナは、ストレス除けと添え書きの教子ことし受験生の母  
達筆の転居通知は日系の企業出向中国青年

身辺整理 山本晶子  
二百冊の本を捨てたりさらにさらに身軽にならば死なれど  
読まずおきし一万八千円の教育書迷いし末に不燃物に出す  
ただ一つの鉢にて托鉢、洗顔せしにしえの僧の清貧思う

川柳 小澤 幸泉  
一路集①  
一生きる平和くらしー  
夢語る未完の家族それぞれに高年齢者そんな言葉が好きになり  
本日は酒に愛想を尽かされる年金にすまぬ長生きしてしまいい耳鳴りの奥に未練を溜めている  
杯で、係りの女の子はべらべらとまくし立てる。所々わかる単語と身振りなどで話の内容を臆測するがまるで判じ物だ。  
「パードン? ダズ デイスマイ ルームキー ルームナンバー 14。アップステア? O.K. アイ シー サンキュー」  
無事部屋に入ると翌朝まで、ヒキコモリまたはトジコモリとなる。が、持参の日本食とワインで胃と心は満たされ、安堵の胸を撫で下ろす。  
トレッキングコースは素晴らしい。足の向くまま気の向くまま、1,250mの

俳句

1月29日(土)  
桂浜・若宮八幡宮 合田青幹  
梅一輪仰げば二輪三輪とこの波も津波となるか海豚哭く  
吉本伸秋

皮だけの蒼める命寒の梅春光をうち広げては巻く渚  
中内英明  
元親の由緒の宮居梅固し踏みしめて寒の真砂の音を聞く  
中内みち代  
寒緩む一と日渚の真砂踏む寒詣ほつほつ社務所閑として  
小笠原さちを

足跡の重なる浜や春隣渡殿へ枝を広ぐる野梅かな  
計報  
浜田教義さんが一月二十五日逝去。慎んでご冥福をお祈りいたします。

個人情報  
○矢野正展さんと森下芳文さんが入院治療され、規定により見舞金を贈りました。  
○山崎きよさんが結婚、二月十一日、披露宴を催されました。  
○永田和子さん著「評伝 片山徳治」が第24回寺田寅彦記念賞を受賞されました。  
ビューポイントまで険しい山道を登ってみた。ワオ! 谷を隔てた氷河の先にマウンテンクック。圧倒的な姿だ。寝袋があれば1,800mのミューラーハットまで行けるのに残念。日本人も多かったが、トレッキング客は少なく、入り口で山を眺めて満足している。もったいない話だ。  
ホテルの食堂はバイキングで品揃えは多いが、食事が38ドル、ビール(330ml)が5ドルだった。ある夜、近くの丘に登りサザンクロスを独り占めにするなど、風変わり面白旅であった(上岡積)

親睦旅行スキー

高退協スキークラブは、スキーと交流親睦をかねて、北海道ルスツリゾートスキー場と札幌雪祭り見学を二月六日から四泊五日で行って来ました。初日スキー場へ到着後、荷物の整理を行い早速ゲレンデに飛び出しナイタースキーを楽しみました。今シーズン初めて滑る人、何回目かの人がパウダースノーの雪の感触を確かめながら滑りを楽しみました。二三日目には参加者九名全員で仲良く広いゲレンデの中の雪景色を楽しみ、また天候もよく山頂から眺める羊蹄山の勇姿や遠くに見える洞爺湖、昭和南山、有珠山から立ち上る噴火の煙などを眺めながら終日楽しく滑りま

新年初歩き

恒例の高退協・山の会合同の初歩きが、一月五日(水)に行われました。当日は風のない穏やかな日で、安芸駅を十時に出発して、野良時計・弁天池・浄定寺など安芸市の名所を一巡して三時に出発地点に帰ってきました。弁天池ではカモ、江ノ川には鯉の群れ泳ぐ姿が見られるなど、楽しい散策でした。

第一部の参加者は三十二名、所用で第二部に残れない人も居ましたが、安芸から四名の参加があり二部の参加者は二十八名でした。玉井ホテル十一階の広間から土佐湾に沈む夕日を眺めながら、参加者の顔も夕日に負けない色に染まり、楽しい交歓の場となりました。(担当 上岡 積)

山の会と新年会

山本景子

素敵な山の方々に久々にお会いした一月五日。三十数名、安芸平野を歩いた後の清々しい顔々。安芸からは新年会のみ参加四名が加わり賑う。二〇〇五年の始まり。

タマイホテル十一階の新年会場。丁度落日の瞬間をパノラマで見られるのではない。長さ十メートルはある窓から期待通りの夕刻のドラマが始まった。黄金、茜、ワイン色と色濃く変化していく雲々。すでに東の空はグレーか青色色の

をめぐりながら大いにかたり、飲み楽しい一時を過ごしました。4日目は、午前中洞爺湖温泉まで足を延ばし、ゆったりと疲れをとる人、物足りない人は最後の滑りを楽しむ人とに別れ、それぞれ楽しみ午後札幌へ移動。宿で手続きを済ませ雪祭り会場である大通り公園を散策。大小織り交ぜた雪像を見ながら感激の声を上げていました。中でも本年の行われる愛知万博の宣伝をかねた作られた名古屋城の雪像は見事な物でした。最終日は千歳空港で思いの土産を紙袋一杯買った。全員無事帰路に就きました。毎年年齢は重ねても、足腰が元気なうちにスキーを楽しみ、また来年も新しい仲間を迎え計画していくこと考えています。

混合の色彩。厚い塊をポンと置いたような雲が浮いている。乾杯と共に賑う声の向こうにドラマは続いている。

安芸の自慢はナスにピーマンそして空と海。遠来の旅人を招くと必ずこの海辺をプレゼントする。ワイドな空へシャッターを押す音、感嘆の声が部屋に広がる。自然のドラマが宴を盛り上げてくれた。平和が刻々と崩れている今、評論集「埋れてきた群像―高知プロレタリア文学運動史―」猪野睦著を手にした。高知に生を受け、悲しくも強烈に短い命をプロレタリア詩人・作家として一九四〇年代を生きた青年たち。彼らの号泣と叫びが聞こえてくる。

P251倉橋頼吉の詩―男も女も家に籠ってしまつた あけくれちいさい火桶をかこみ 屋根のある幸せを想ひ いくぢなく背骨は折つたまま―今と時を重ねて希望とはいったい何なのだろうと考えてみる。

もう一つの詩―洪水や 戦争や 飢え 国ほろび礼教は埋れ 山河の悠久―今もひと昔も変らぬ自然と人間の欲望。平和を守るとは何をする事なのだろうか。

歩く、自分で歩く、目的に向かつて歩く、歩く視線で暮しを見て平和を守る。十四キロの道を四時間かけて歩いた安芸平野は、豊かに生きていた。歩いて ゆっくり歩いて平和を守る、歩くこと 礼賛!



相撲ミニ知識(六十三)

林 勤

相撲用語(2)

アゴをかます 相手にものを頼まれたとき、けんもホロロに断ること。立合いに相手のアゴを激しく一発かち上げることを「かます」と言うのでこのあたりからきたもの。

イカをきめる

勝負ごとに勝つたまま勝ち逃げすること。明治時代は十両以下は五日制で、休み負けとして扱わなかったため、二勝一敗くらいでも番付が上がるため、あとを休んでしまふ力士が多く、これは「イカをきめる」と言われた。イカが逃げる時、スミをはいって行方をくらますところからきている。

かわいがる

激しいけいこでさんさんに痛めつけること。下位力士から見れば上位力士に「あんまする」ことになるが、上位力士から見ると「かわいがる」ことになる。この激しいけいこで下位力士が次第に強くなることから「かわいがる」と言われる。

県社保協が介護保険の学習会



講演する田中教授

政府が狙っている介護施設での居住費用・食費を保険外自己負担にするなどの介護保険制度の改善にストップをかけるため、県社会保険推進協議会は17日、こうち男女共同参画センター・ソールで、制度改善の問題点を学ぶ学習会を開きました。学習会では県社保協会長の田中きよむ・高知大教授(福祉経済論)が講演。現在狙われている制度見直しについて、①症状の軽い要介護者(介護度が要支援、要介護1)には「自立を促す」ことを口実に介護サービスを制限、②施設の居住費・食費の利用者自己負担導入の問題点を指摘。「国の負担を減らす観点が先行し、自己負担増、サービス減で高齢者の生活権を損なう改善になっている。1人ひとりのニーズが把握でき、対応できる制度にしていけることが大事」と強調しました。学習会では、県社保協から、中央社保協製作の介護保険改善の問題点がよく分かるビデオテープの普及、改悪反対署名の取り組み、国とともに介護保険制度運用で大きな責任を持つ市町村に対して要求運動を強めていくことが呼びかけられました。

貧乏神

十両筆頭力士のこと。十両力士であるのに、一場所十五日のうち、力のある幕内力士とかなり多く対戦させられて成績がなかなか上がりに難いつらい地位であるところから、こう呼ばれている。しかし、この位置で勝ち越せば入幕(前頭へ上がる)がほぼ約束される希望の持てる位置でもある。

いんま

「部屋の柱、かせぎ手、ドル箱」のこと。一昔前の大鵬、先の貴乃花、現在なら朝青龍らが、それぞれの部屋のこめびつである。

がいにする

こてんこてんにやつつけること。けいこで激しくしつこくすること。

あんま

下位力士をつかまえて、けいこをつけること。下位力士をつかまえて「おい、あんませい！」などと言う。これは、下位力士にはけいこになり、上位力士にはウォーミングアップ、つまり、身体をのみほぐす「あんま」の役目をすることからきている。